

平成18年度「専修学校を活用した職業意識の啓発推進」成果報告書

事業名	『フリーター・ニートになる前に受けた授業』全国キャラバン		
法人名	学校法人三橋学園		
学校名	船橋情報ビジネス専門学校		
代表者	理事長 鳥居 勝一	担当者 連絡先	鳥居徹也 TEL:047-425-1051
<p>1. 事業の概要</p> <p>「働く意味」について、就業前の児童・生徒への意識を高めるため、フリーター・ニートを素材に講演する。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>委託事業として申請した講演は、平成17年度で70ヶ所ほどだが、それ以外にさらに70ヶ所ほどの講演依頼を受けた。平成16年度に行った講演も含めると、北海道の別海町から沖縄県の石垣島まで全国200ヶ所以上、約4万人に講演したことになる。さらに、講演内容をその地域にも知らせるために、マスコミを積極的に活用した。</p> <p>結果的に、新聞に約100回、テレビに約50回ほど取り上げられた。「働く意味」を語ることは難しいが、「フリーターと正社員の生涯賃金差は2億円に上る」という数字はインパクトがあるので印象に残る。この数字をきっかけとして「働く意味」を考えてほしかったので、当初の目的は達せられたと思う。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>アンケートは回収できたものだけであるが別紙として添付した。基本的にすべての学校でアンケートを行ったが、ついに郵送して来なかった学校や、全員分を送って来ない学校が多数あった。講演が続いたため、一つひとつのチェックが甘くなってしまった。反省材料である。</p> <p>今年度から行った小学校であるが、これは大いに効果的だと思った。感想文では、自分が具体的に努力したいものを逐一あげてくれた。野球、ダンス、絵、ピアノ、算数、剣道、英語、そろばん…。素直さというものは重要であると改めて考えた次第である。</p> <p>③今後の活用</p> <p>個人的に依頼を受けた講演に応じる予定</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>同上</p>			

3. 事業の実施に関する項目

①職業体験講座、講演会の実施

講座対象:小学校13ヶ所、中学校31ヶ所、高校20ヶ所、その他(PTA・教員等)9ヶ所

参加者数:約1万人

参加者の反応の割合:(詳細はアンケート参照のこと)

フリーター・ニートへの理解度は9割以上が理解できたと答えた。

「フリーターになりたいか」「ニートになりたいか」との問いには、それぞれ約9割、約8割が否定的な回答をした。

「努力への意欲」については、約8割が好意的な回答をした。

②その他

平成17年度から始まった全国キャラバンの2年目であった。そもそもの始まりは「身近にフリーターがいる高校生は安易な考えでフリーターになってしまう」という高校現場の嘆きに応えるべく、『フリーター・ニートになる前に読む本』という小冊子を作成(後に書籍化)したものであった。平成18年度はその対象を小学5年生まで広げ、全国で授業・講演を展開した。

今年度のキャラバン先を公募していた4月3日に、テレビで生出演する機会があり、全国から講演依頼が殺到した。スケジュールが空いている限りすべての依頼を受けた。講演依頼は、委託事業の受付締め切り後も続き、中には自腹で駆けつけたものもある。

最近の報告では、景気回復の影響でフリーター数が減少に転じたとのことだが、平成18年4月の段階では、このフリーター問題はメディア等でも深刻に取り上げられていた。使命感のようなものにも後押しされた。

私の講演(授業)は、児童・生徒向けと教員・PTA向けの2通りある。

前者は3部構成となっており「フリーター・クイズ」「ニートの事例」「努力と成長の関係」である。特に「フリーター・クイズ」における「フリーターと正社員の生涯賃金格差2億円」という情報は、全国で驚きをもって迎えられた。単に労働問題を扱う人間ではなく教育現場に携わるものとして、私は話の最後に「努力と成長の関係」を説いた。

私の講演を聞くことによって「働いてみようと思った」という感想を持たれても、それはそれで嬉しいのだが、やはり違和感がある。児童・生徒たちの仕事は勉強である。私は彼らに、日常の勉強やクラブ活動への動機付けをしたかった。

キャリア教育には、「将来働くために今の勉強をがんばりたい」というモチベーション・アップが求められる。ぶれてはいけない。成果については事項に譲るが、特に小学生において、素直な感想が得られた。キャリア教育は小学校から取り組むべきものなのかもしれない。

後者の教員・PTA向け講演であるが、私の授業をキャリア教育の1つのサンプルとして解説した。なぜこの授業だと生徒たちが納得するのか、その種明かしである。一般にモチベーションを上げるには2つの方法がある。すなわち①行動をした後のメリットを示す②行動しなかったときのデメリットを示す。①だけでは弱いですが、②をセットにすると説得力が増す。「安易にフリーターをしていると生涯賃金差は2億円になる」という内容が②に該当する。私はビジネスマンなので、こうした説得のためのプレゼン技術を教育現場に提供した。授業技術を上げることも重要なことである。

2年間続いた全国キャラバンだが、実は次年度以降も多くの依頼を受けていた。しかし委託事業の終了ということで断ら得なかった。フリーター数も200万人を割ったので、私の役割も終わったと考えている。